

行雲流水

No. 8 0 令和3年7月26日発行

「^{こころ}心^{そば}が生徒の側にある」ということ その2

校長 寒河江 正人

村山教育事務所の前・管理主幹、白林和夫さんの文章が印象的だったので自戒を込めて紹介します。

コミュニケーションの中でも信頼関係を築くためにより重要なのは「**聞く**」ことであると言われます。人間関係におけるトラブルの大半が「**自分を理解してもらえない**」と感じることであり、聞くことはすなわち「**相手を理解しようとする**こと」であるからです。

一方で、ほとんどの人は「**聞く**」よりも「**話す**」ことの方が好きで、話すことは聞くことの何倍も満足度が高いといわれます。私も人と話をするのは好きですが、多分に漏れず、自分が話すことが多くなりがちです。逆に言えば、聞いてくれる人というのは「**話したい、聞いて欲しい**」という欲求を満足させてくれる人ということができます。

また、「**自分に自信のある人は、人の話を聞かない**」ということがよくいわれます。私たち教師は専門職として常に研鑽に努め、自信をもって教壇に立たなければならないことは、言うまでもありません。しかし、自分の考えに自信をもつあまり「聞くこと」を疎かにしやすいという側面もあることを常に意識する必要があるのかもしれない。

体罰等の不適切な指導や保護者とのトラブル、児童生徒の事故や教職員間のパワハラなど、メディアを通じて目にする様々な事故や不祥事が発生する背景には、種々の要因があると考えられています。しかし、**普段から子供の話に耳を傾けたり、保護者からの意見を丁寧に聞いたりしていれば防げたという事例は少なくない**と思われるます。

また、組織の危機を最小限に止めるためにも「**聞くこと**」は重要です。**危機とは言えないほどの些細な段階で管理職や同僚に相談していれば大きな危機に発展しなかったであろう**という事例は多々あります。管理職や同僚が話を聞いてくれる、話しやすい職場こそが、同僚性があり、危機管理に強い組織であるということができます。

カウンセリングに代表されるように「**聞くこと**」にも多くのスキルがあります。これらは、言い換えれば「**聞く力**」ということになるのでしょうか。より高いレベルの「**聞き方**」を、「**聴く**」「**傾聴する**」と表現する場合もあり、私たち教師は、こうしたスキルを身につけていくことも必要だと思います。しかし、高いスキルがなくとも「**聞く姿勢**」さえあれば、コミュニケーションは成り立ちます。

コロナ禍というコミュニケーションが制限されている今、まず「**聞く姿勢**」をもつことが求められているのではないのでしょうか。私自身、忙しさを言い訳にせず、しっかりと聞く姿勢をもち、「話したい、聞いて欲しい」存在になることを心がけたいと思っています。

<村山教育事務所だより「E-NEWSむらやま」第228号より抜粋>